症例検索結果一覧表示画面（フリーワード検索例：アセトアミノフェン）

http://www.j-poison-ic.or.jp/shourei.nsf/folderCase_04?OpenView&count=4 - Microsoft Internet Explorer

症例検索結果一覧 (4件)

	曝露物質		曝露経路	曝露量	患者年齢層	症例タイトル	転帰	重症度		
1	医薬品	アセトアミノフェン	経口	3.98g	20-64歳	常用者が過量摂取し、NAC投与、血漿交換にかかわらず肝障害により死亡した例	死亡(18日)	死亡	特異例	[詳細]
2	医薬品	アセトアミノフェン	経口	32g	20-64歳	意識障害、痙攣、肝障害をきたし、血液透析、NAC投与を行った例	生存(入院30日)	重症	典型例	[詳細]
3	医薬品	アセトアミノフェン	経口	16g	20-64歳	傾眠、頭痛をきたしたが、NAC投与、DHPで改善した例	生存(入院7日)	重症	典型例	[詳細]
4	医薬品	アセトアミノフェン	経口	4.8g	20-64歳	傾眠、肝障害をきたし、NAC投与を行った例	生存	重症	特異例	[詳細]

症例の詳細

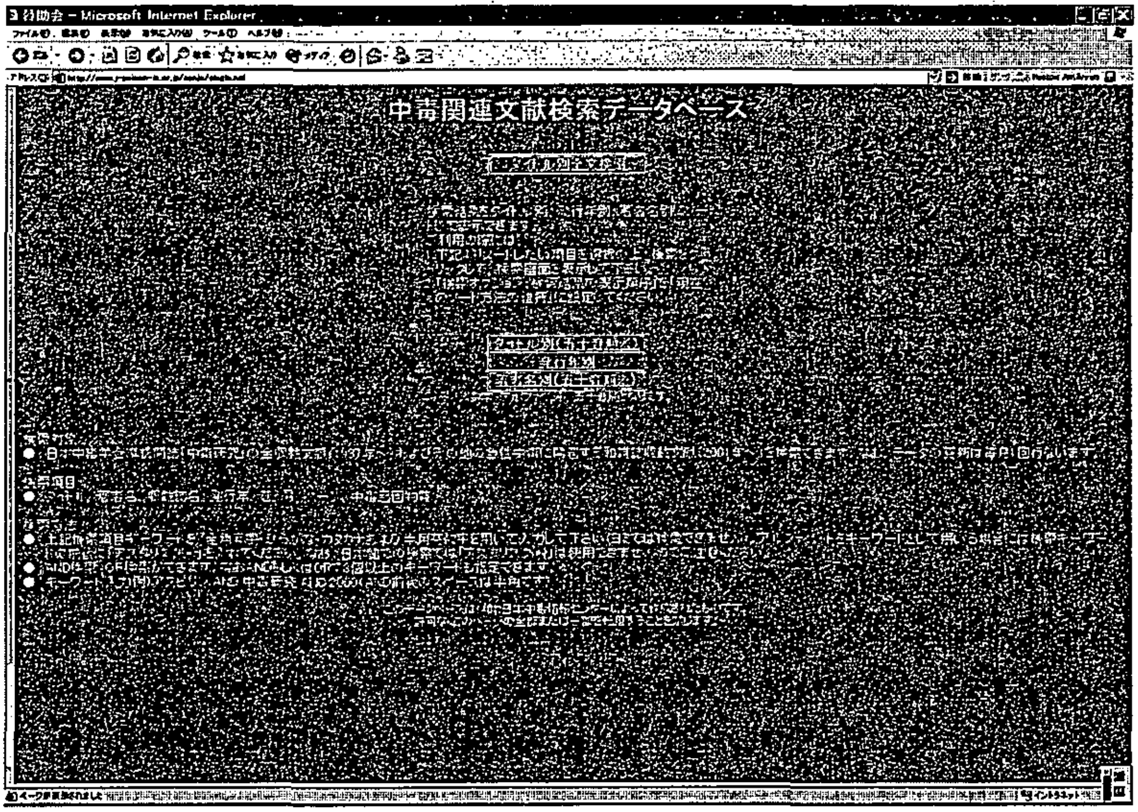
http://www.j-poison-ic.or.jp/shourei/119900422053.pdf - Microsoft Internet Explorer

119900422053

曝露物質分類	医薬品
曝露物質	アセトアミノフェン
曝露物質詳細	
曝露経路	経口
曝露量	3.98g
患者年齢層	20-64歳
転帰	死亡(18日)
症例タイトル	常用者が過量摂取し、NAC投与、血漿交換にかかわらず肝障害により死亡した例
患者	29歳(女性)

図１－２　会員向けホームページ　新規掲載項目（中毒症例提示データベース）

中毒関連文献検索データベース



タイトル別

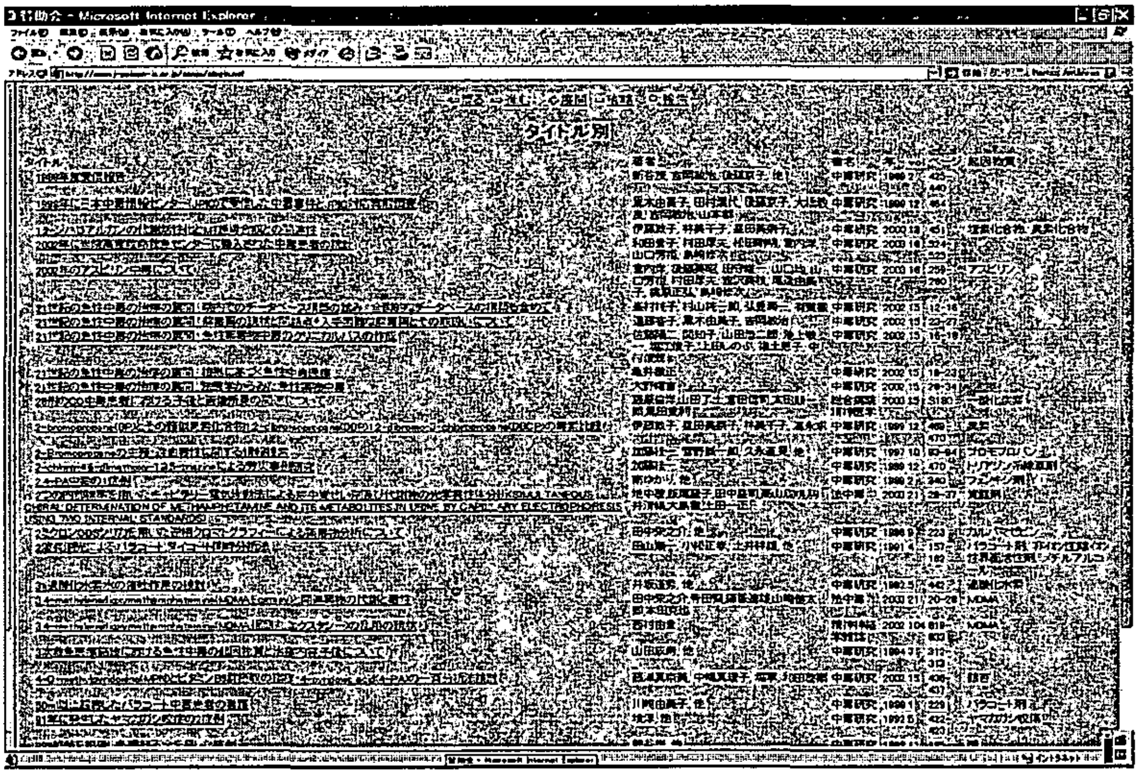
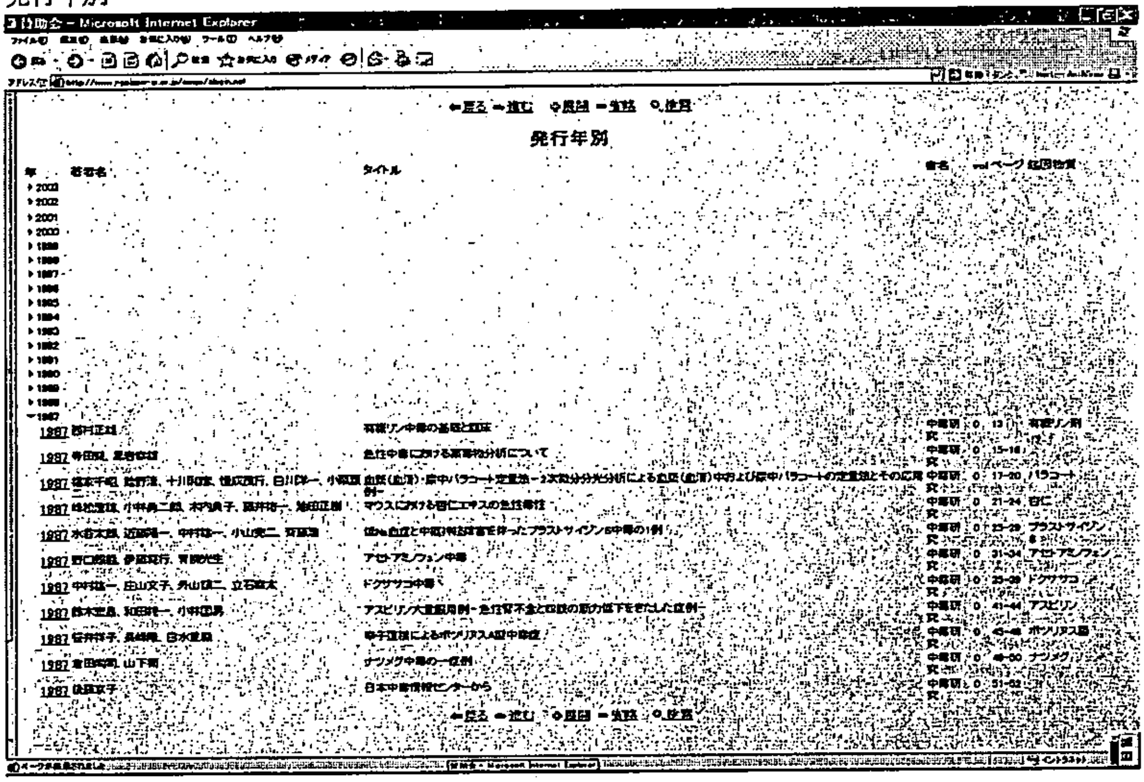


図２－１ 会員向けホームページ 新規掲載項目（中毒関連文献検索データベース）

発行年別



著者名別

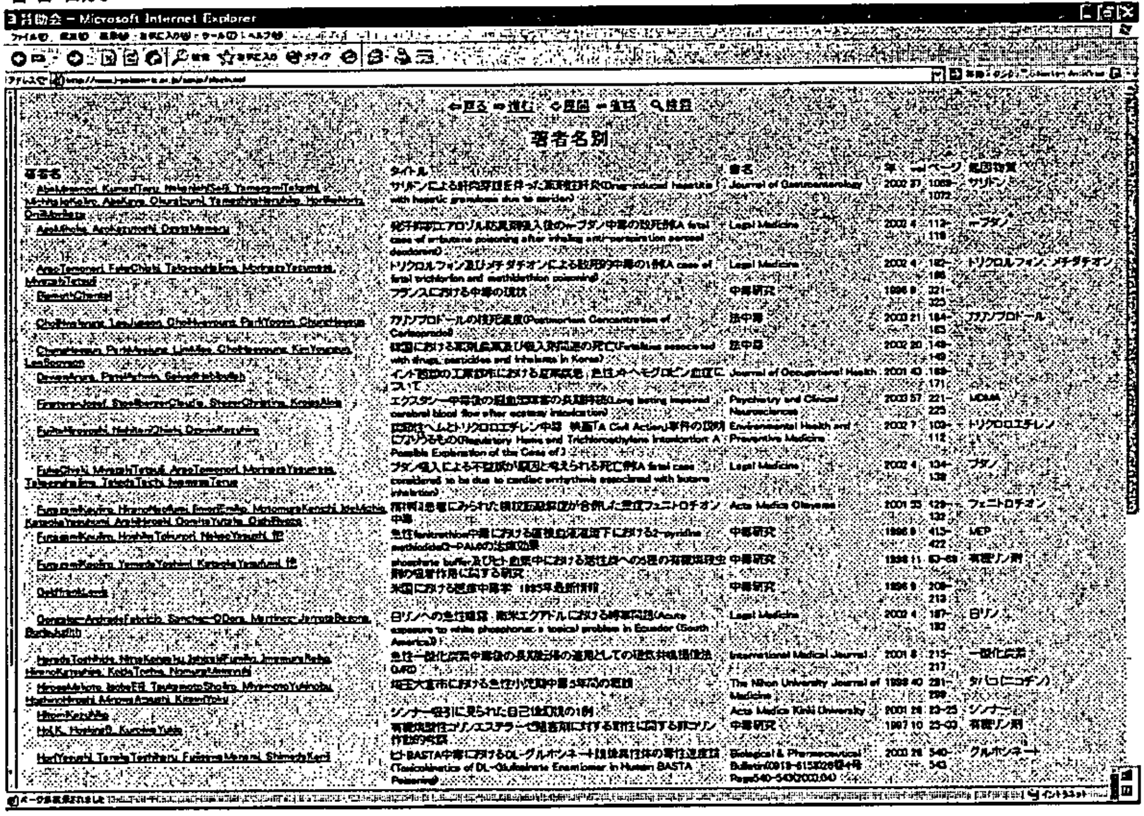
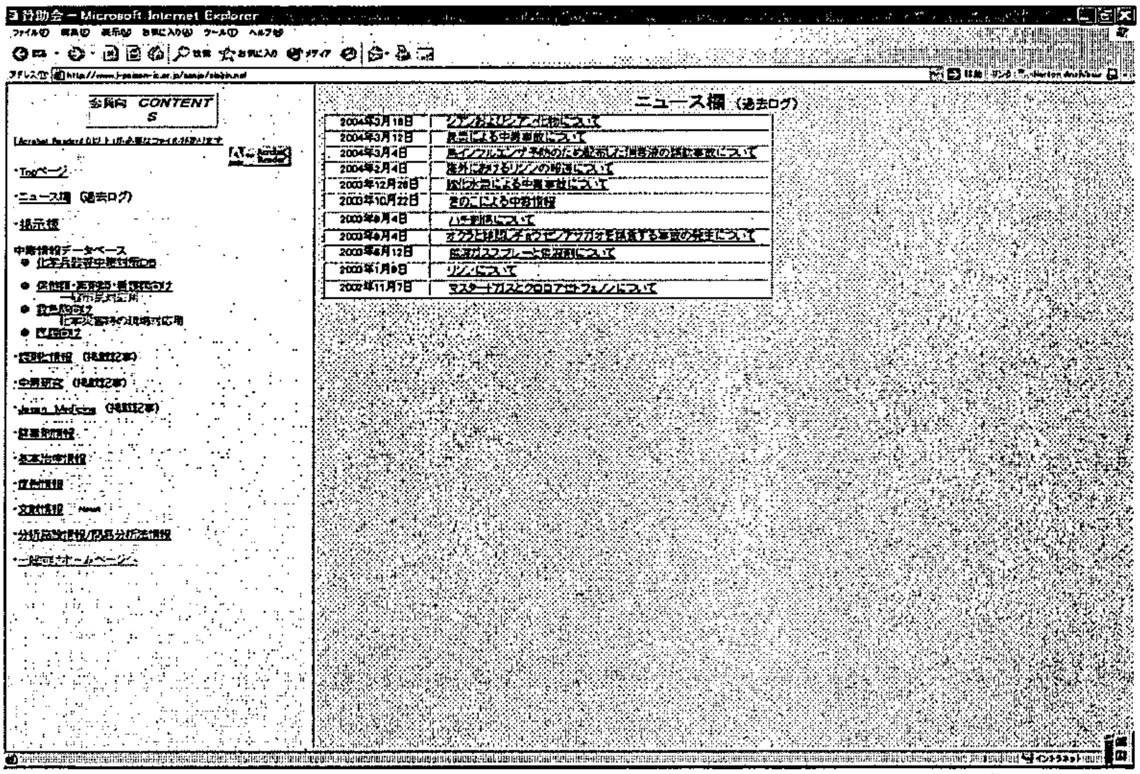


図２－２ 会員向けホームページ 新規掲載項目（中毒関連文献検索データベース）

ニュース欄



（掲載例：海外におけるリシンの報道について）

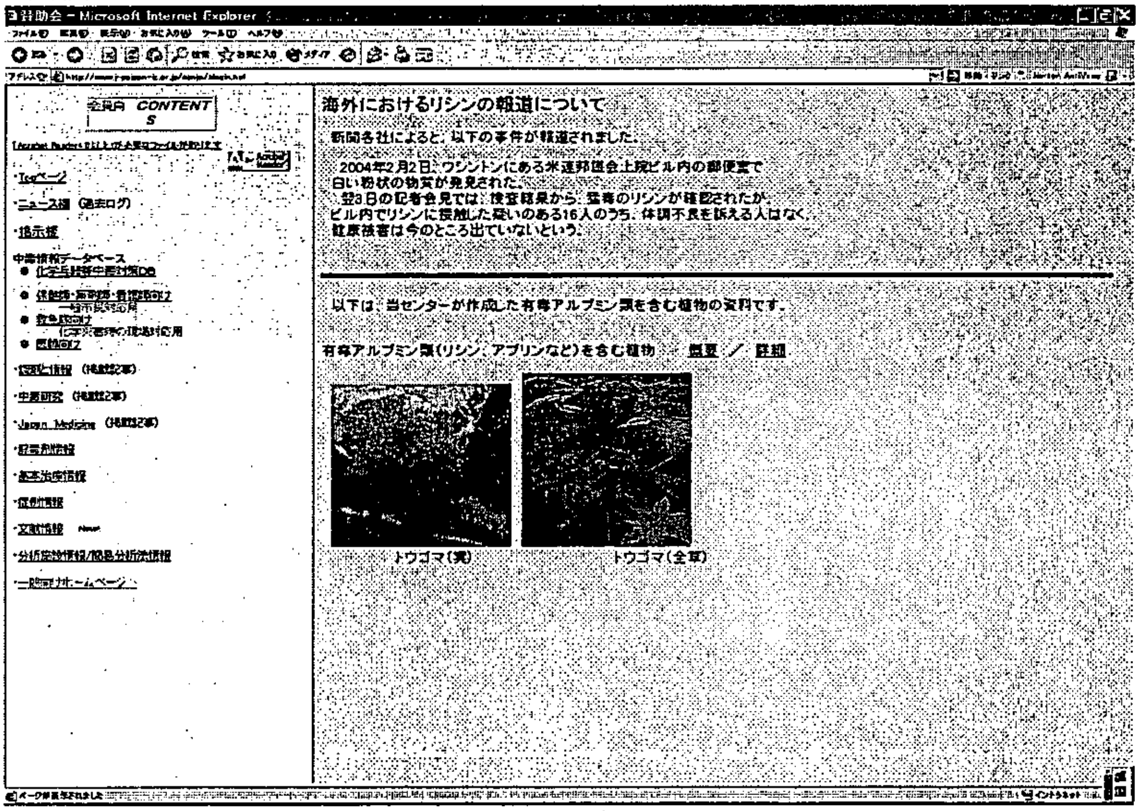
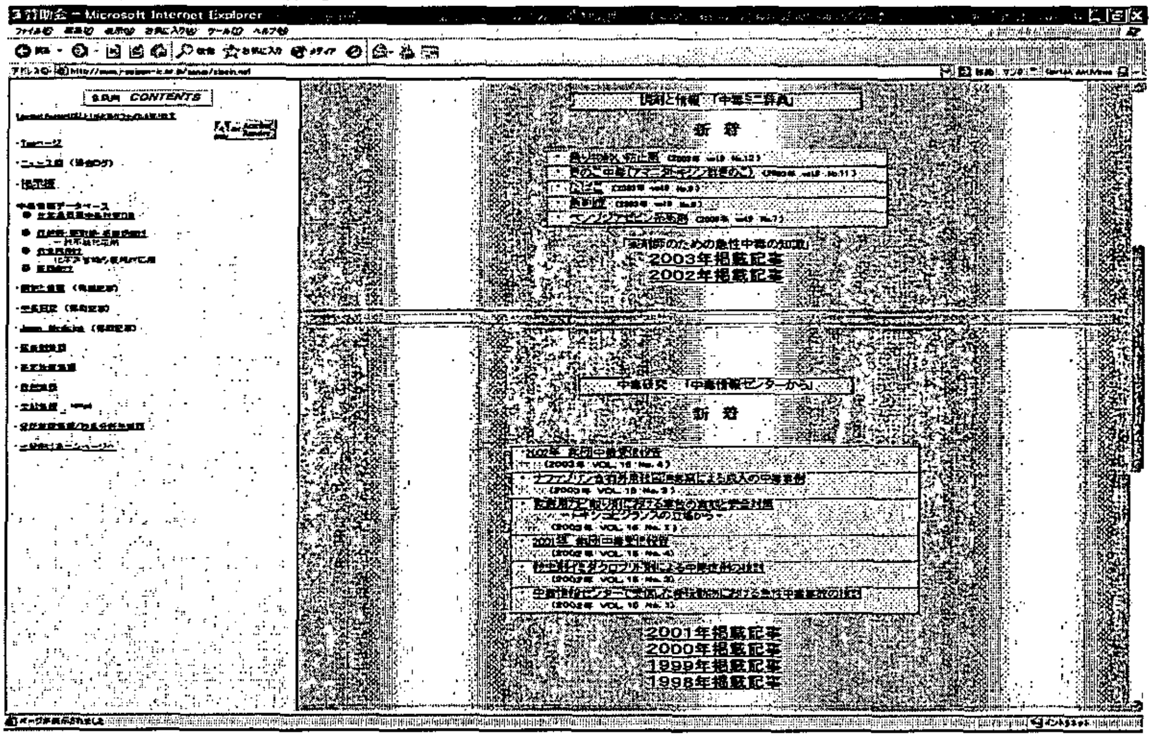
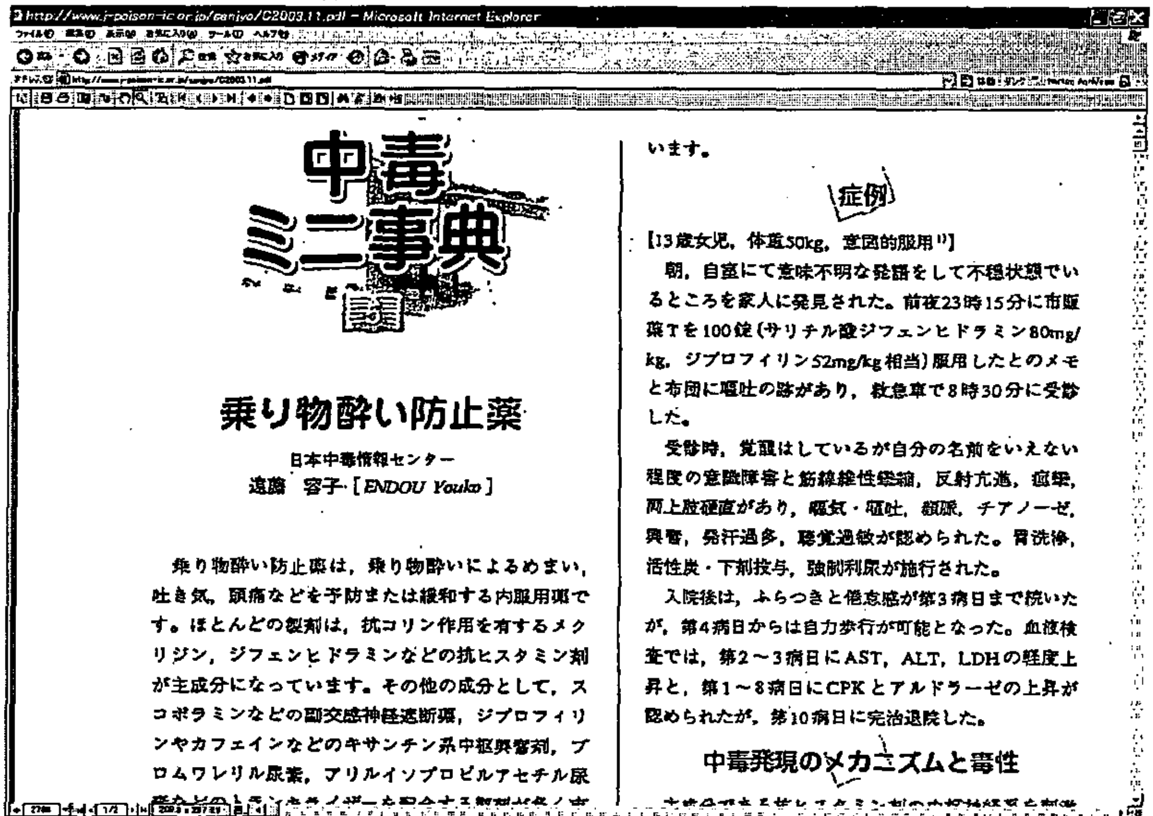


図３　会員向けホームページ　掲載内容の追加更新（ニュース欄）

調剤と情報「中毒ミニ辞典」



(掲載例：乗り物酔い防止薬)



中毒ミニ事典

乗り物酔い防止薬

日本中毒情報センター
遠藤 容子 [*ENDOU Youko*]

乗り物酔い防止薬は，乗り物酔いによるめまい，吐き気，頭痛などを予防または緩和する内服用薬です。ほとんどの製剤は，抗コリン作用を有するメクリジン，ジフェンヒドラミンなどの抗ヒスタミン剤が主成分になっています。その他の成分として，スコポラミンなどの副交感神経遮断薬，ジプロフィリンやカフェインなどのキサンチン系中枢興奮剤，ブロムワレリル尿素，アリルイソプロピルアセチル尿

います。

症例

【13歳女児，体重50kg，意図的服用[1]】

朝，自室にて意味不明な発語をして不穏状態でいるところを家人に発見された。前夜23時15分に市販薬Tを100錠（サリチル酸ジフェンヒドラミン80mg/kg，ジプロフィリン52mg/kg相当）服用したとのメモと布団に嘔吐の跡があり，救急車で8時30分に受診した。

受診時，覚醒はしているが自分の名前をいえない程度の意識障害と筋線維性攣縮，反射亢進，痙攣，両上肢硬直があり，嘔気・嘔吐，頻脈，チアノーゼ，興奮，発汗過多，聴覚過敏が認められた。胃洗浄，活性炭・下剤投与，強制利尿が施行された。

入院後は，ふらつきと倦怠感が第3病日まで続いたが，第4病日からは自力歩行が可能となった。血液検査では，第2〜3病日にAST，ALT，LDHの軽度上昇と，第1〜8病日にCPKとアルドラーゼの上昇が認められたが，第10病日に完治退院した。

中毒発現のメカニズムと毒性

図4　会員向けホームページ　掲載内容の追加更新（調剤と情報「中毒ミニ辞典」）

資料１－１

平成 16 年１月

賛 助 会 員 各 位

財団法人　日本中毒情報センター

会員向けホームページの利用アンケート調査について（お願い）

拝啓　時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
当財団の運営につきましては、平素からご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。
さて、当財団では、平成 13 年 8 月から医療関係者向けの中毒関連情報を掲載した「賛助会員向けホームページ（平成 14 年 4 月から「会員向けホームページ」に名称変更）」を発信いたしております。昨年同様、今後の開発、更新のために本ホームページに関するアンケート調査のご協力をお願いいたします。

本ホームページのご利用は、賛助会員（企業を除く）の皆様、ホームページ会員（医療従事者のみ）、ならびに中毒専門家、関連諸機関に限定させて頂きますので、（財）日本中毒情報センター・ホームページ（http://www.j-poison-ic.or.jp）に設けました会員認証画面で、下記に示しました入力例のように、貴殿（貴院）の賛助会員区分（1 桁）と番号（4 桁）、12 桁の認証番号（共通）を入力して頂きますようお願い申し上げます。

（入力例）　賛助会員番号　〇－△△△△　の場合　［区分(1 桁)－番号(4 桁)］
会員区分：〇（半角数字）
会員番号：△△△△（半角数字）
認証番号：************（半角英数字）
注）この認証番号は平成 16 年 4 月 30 日まで有効

別紙「会員向けホームページの利用アンケート調査」を２月１６日までにご返送頂ければ幸いです。ご多忙のところ誠に恐れ入りますが、よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、貴殿（貴院）のますますのご活躍をお祈りいたします。
今後ともどうぞよろしくご支援のほどお願い申し上げます。

敬具

なお、本件につきましてご不明な点がございましたら、下記までご連絡くださいますようお願い申し上げます。

<連絡先>　本部事務局　企画・広報課　飯田／黒木
TEL：029-856-3566／FAX：029-856-3533　E-mail：head-jpic@j-poison-ic.or.jp

会員番号

ご所属名：
ご 氏 名：

会員向けホームページのご利用アンケート調査

Ⅰ. 会員向けホームページが公開された平成13年8月1日～平成16年1月現在まで、どのくらいご利用されましたか（延べ数）。該当する数字に○印をお願いします。

1. 利用していない　2. 1～5回　3. 6～10回　4. 11～20回　5. 21回以上

＊「1.利用していない」と回答された方のみ、その理由を選択し記入をお願いします。

a.インターネットを利用していないため（今後の利用予定について　有・無）

b. 利用したかったがアクセスできなかった

（使用ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ機種、OS、ﾌﾞﾗｳｻﾞとﾊﾞｰｼﾞｮﾝ等をご記入ください。　　）

c. その他（　　）

Ⅰで「1.利用していない」と回答された方でホームページへアクセスが可能な場合は、今回是非アクセスして頂き、以下の設問にご回答くださいますようお願いいたします。

Ⅱ. 掲載内容について、a～n各項目の評価をお願いいたします。評価段階は下記の数字の通りといたしますので、括弧内の該当する数字に○印をお願いします。

1.非常に有用である　2.有用である　3.普通　4.あまり必要ではない　5.不要

◇a. ニュース欄	（ 1 2 3 4 5 ）
b. 掲示板	（ 1 2 3 4 5 ）
c. 中毒情報ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ（化学兵器等中毒対策ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ）	（ 1 2 3 4 5 ）
◇d. 中毒情報ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ（保健師・薬剤師・看護師向け）	（ 1 2 3 4 5 ）
e. 中毒情報ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ（救急隊向け）	（ 1 2 3 4 5 ）
f. 中毒情報ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ（医師向け）	（ 1 2 3 4 5 ）
◇g. 調剤と情報「中毒ﾐﾆ辞典」、「薬剤師のための中毒の知識	（ 1 2 3 4 5 ）
h. 中毒研究「中毒情報センターから」	（ 1 2 3 4 5 ）
i. JapanMedicine「最近の中毒と医療」	（ 1 2 3 4 5 ）
j. 解毒剤情報	（ 1 2 3 4 5 ）
◎k. 症例情報（中毒症例提示ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ）	（ 1 2 3 4 5 ）
◎l. 文献検索情報（中毒関連文献検索ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ）	（ 1 2 3 4 5 ）
m. 文献検索情報（邦文文献タイトル）	（ 1 2 3 4 5 ）
n. 分析施設情報・簡易分析法情報	（ 1 2 3 4 5 ）

Ⅲ. 新規掲載項目（上記Ⅱの◎印項目）、追加掲載項目（上記Ⅱの◇印項目、追加内容は以下参照）の内容について、ご意見をお聞かせください。

<追加掲載>a：項目名変更・順次追加、d：食中毒情報を追加、g：「中毒ミニ辞典」を追加

（　　）

Ⅳ. 利用方法、システム、掲載項目の内容、開発を希望する項目、その他の要望などについて、ご自由にご記入ください。

（　　）

表1　会員向けホームページ利用状況

	平成13年度	平成14年度	平成15年度
	回答数(率)	回答数(率)	回答数(率)
利用した	**160 (100.0%)**	**194 (100.0%)**	**242 (100.0%)**
1～5回	129 (80.5%)	131 (67.5%)	158 (65.3%)
6～10回	18 (11.2%)	37 (19.1%)	40 (16.5%)
11～20回	6 (3.8%)	14 (7.2%)	18 (7.4%)
21回以上	6 (3.8%)	8 (4.1%)	18 (7.4%)
不明	1 (0.6%)	4 (2.1%)	8 (3.3%)
利用していない	**421 (100.0%)**	**242 (100.0%)**	**255 (100.0%)**
インターネットを利用していない	224 (53.2%)	148 (61.2%)	142 (55.7%)
必要なかった(電話で充分等)	69 (16.4%)	32 (13.2%)	39 (15.3%)
知らなかった(連絡不備等)	41 (9.7%)	17 (7.0%)	17 (6.7%)
忘れていた	16 (3.8%)	6 (2.5%)	2 (0.8%)
アクセスできなかった	10 (2.4%)	9 (3.7%)	20 (7.8%)
その他	36 (8.6%)	14 (5.9%)	23 (9.0%)
不明	25 (5.9%)	16 (6.6%)	12 (4.7%)

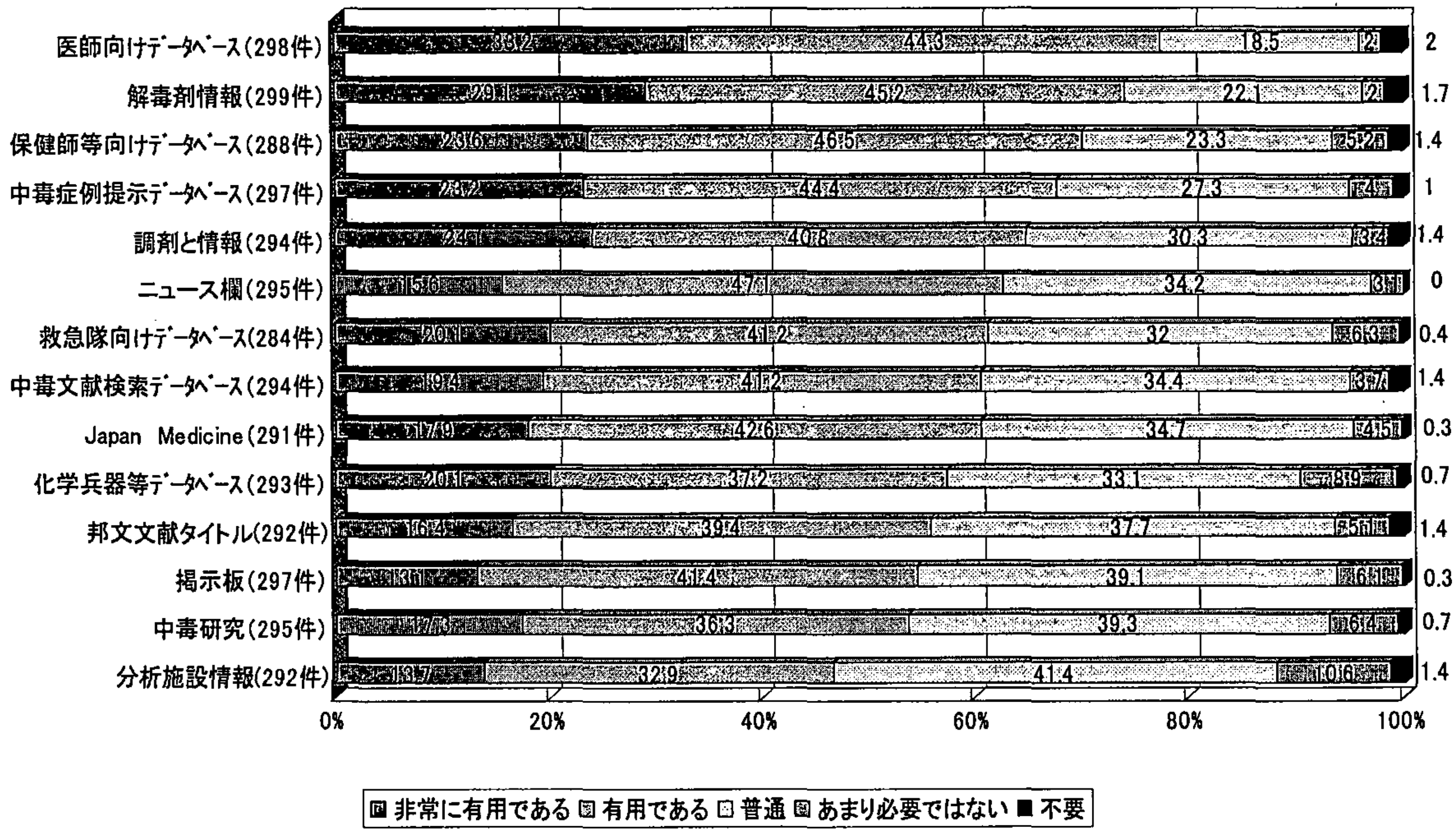
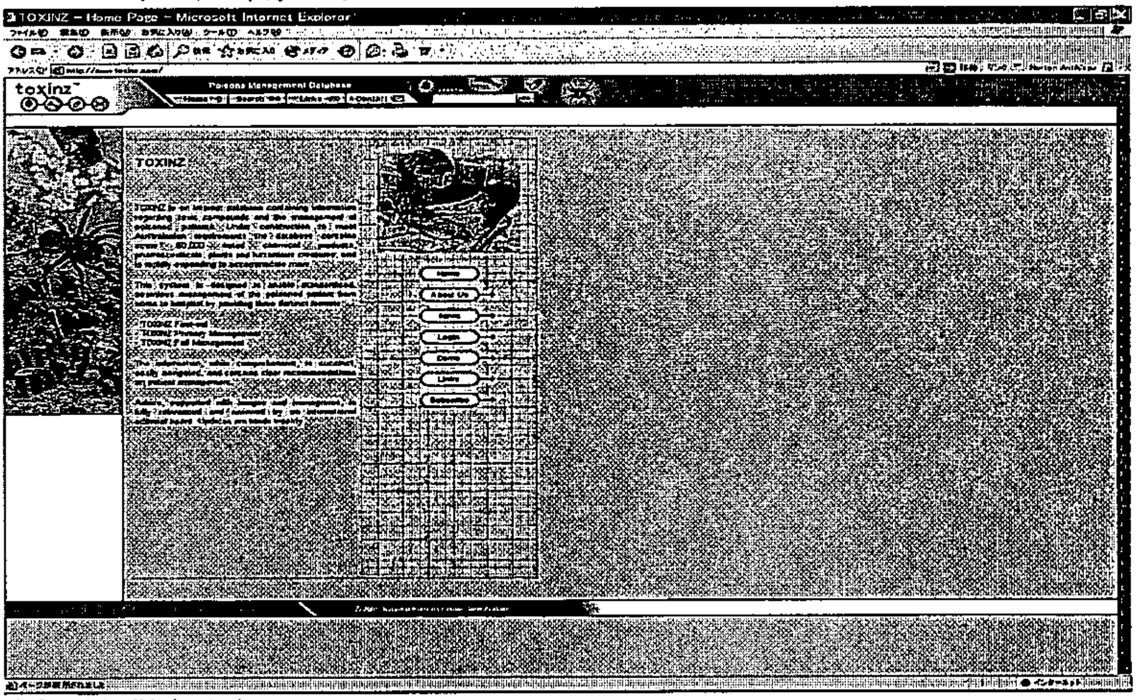
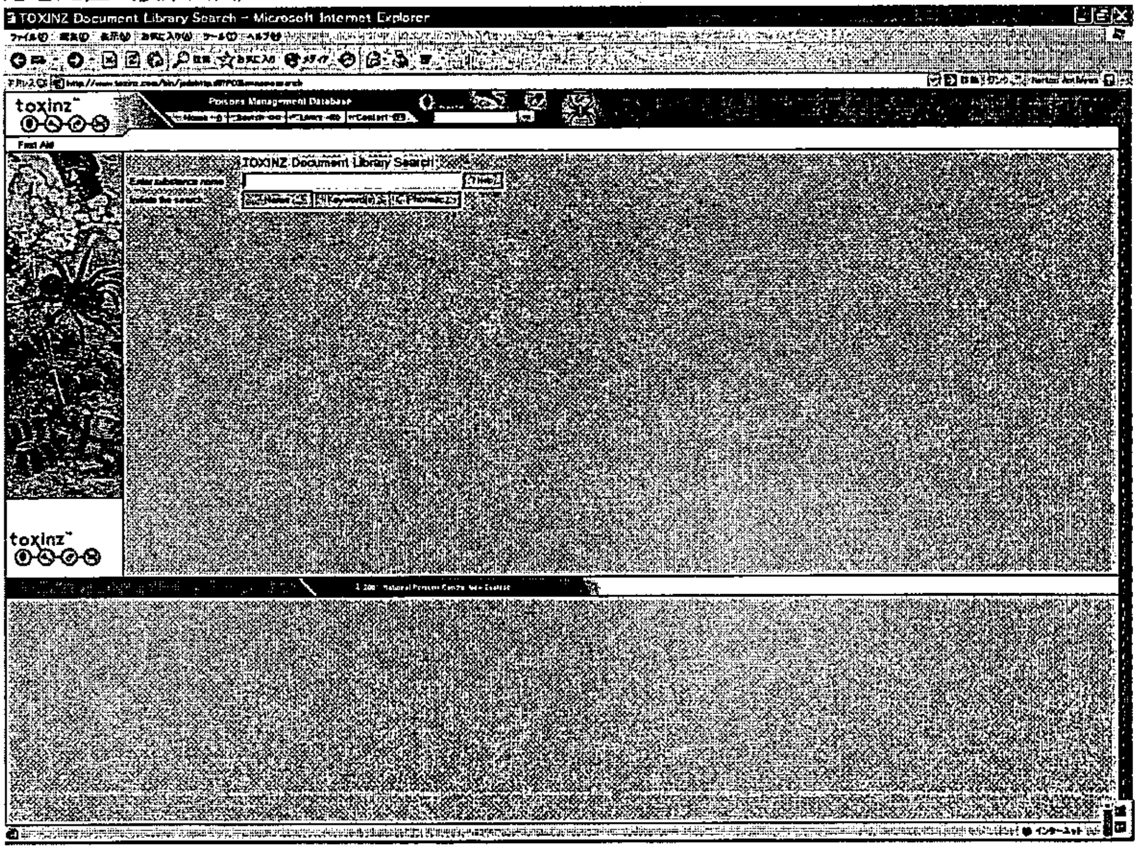


図5 会員向けホームページ掲載項目の有用性評価

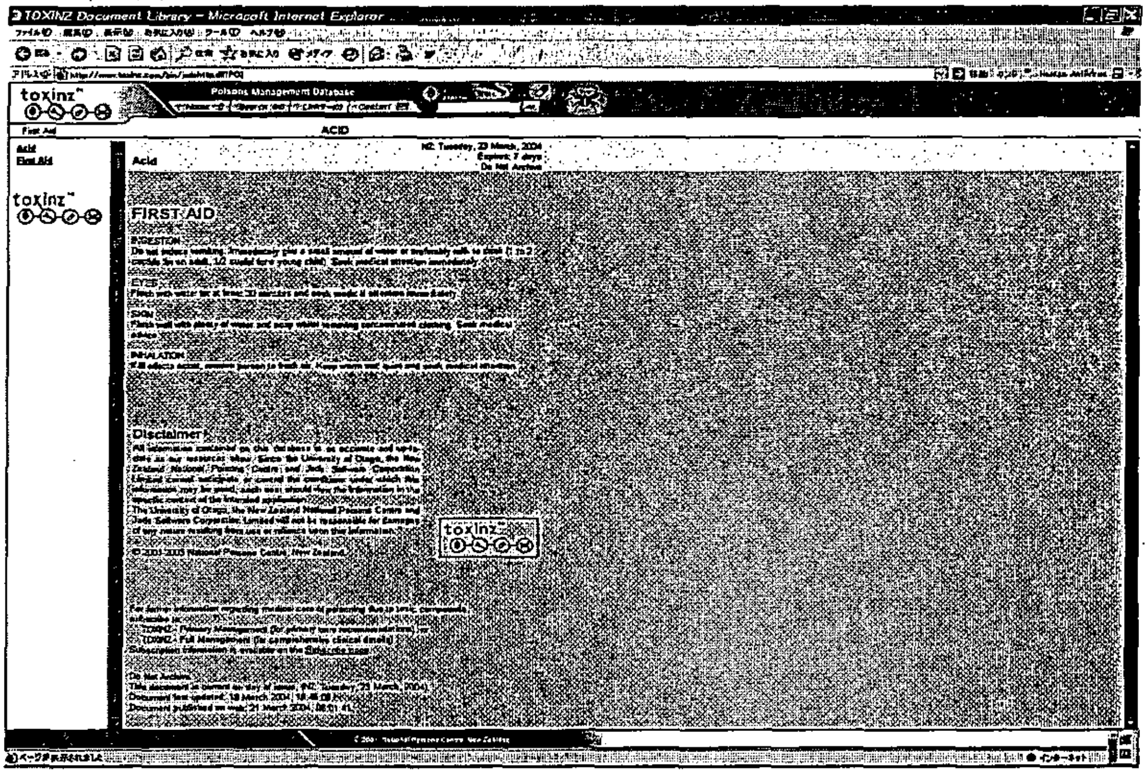
ニュージーランドの中毒センター



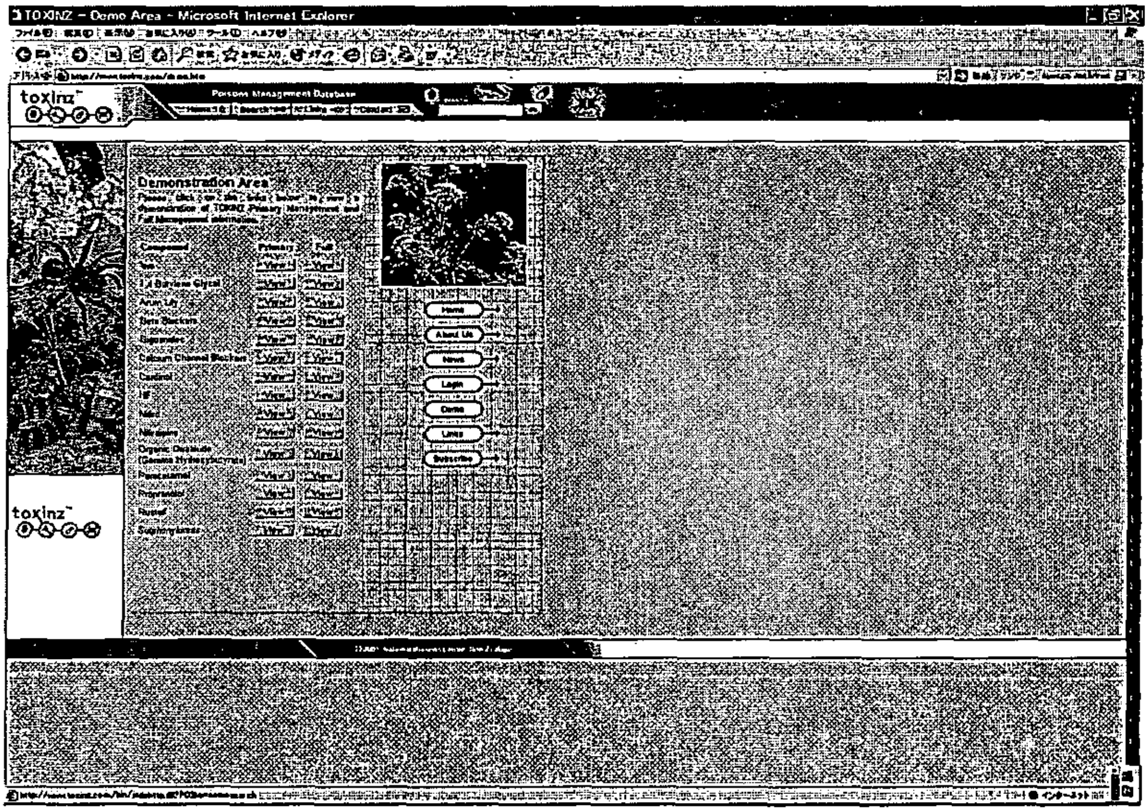
応急処置（検索画面）



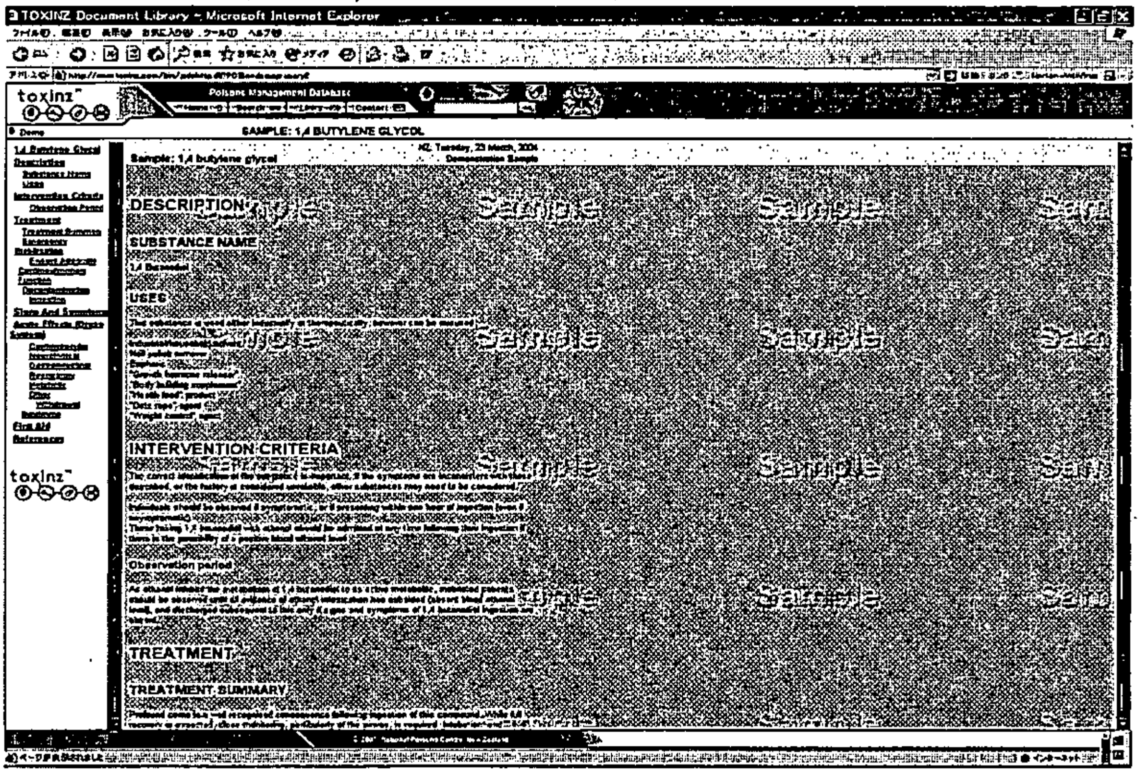
応急処置（例：酸）



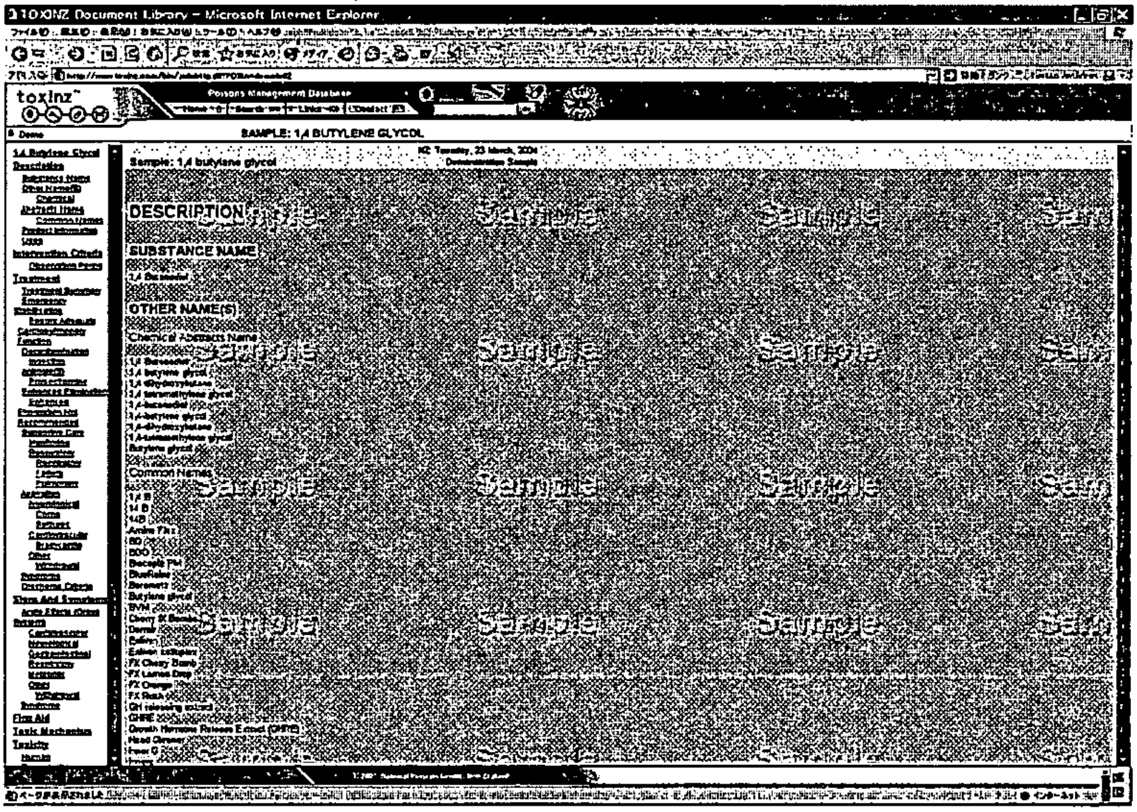
マネージメント（デモ版）



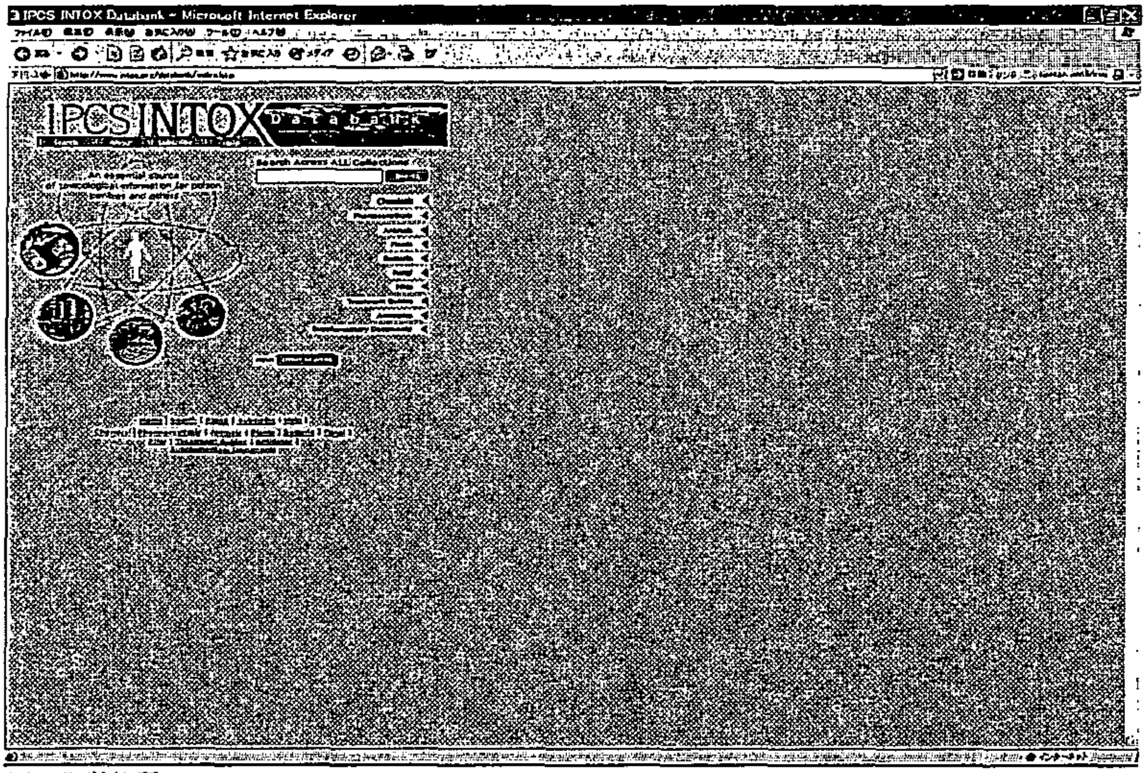
マネージメント概要版（例：1,4-ブチレングリコール）



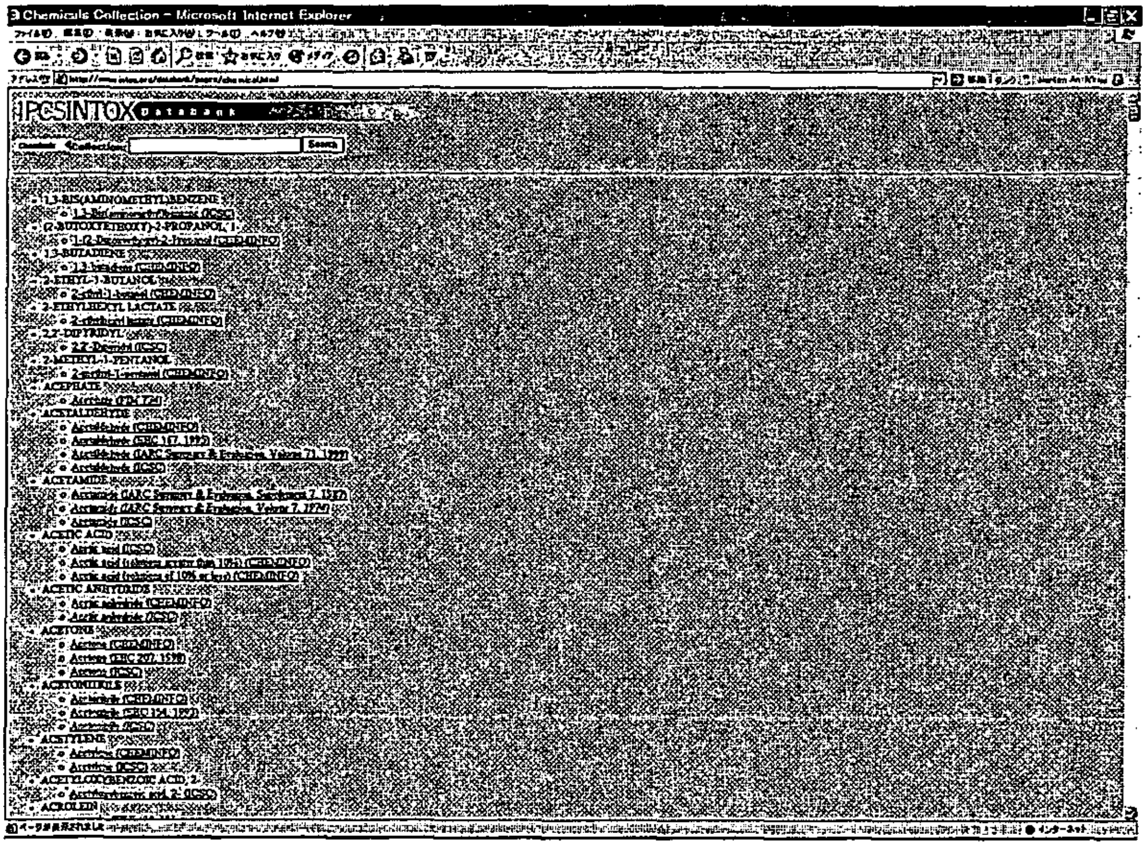
マネージメント詳細版（例：1,4-ブチレングリコール）



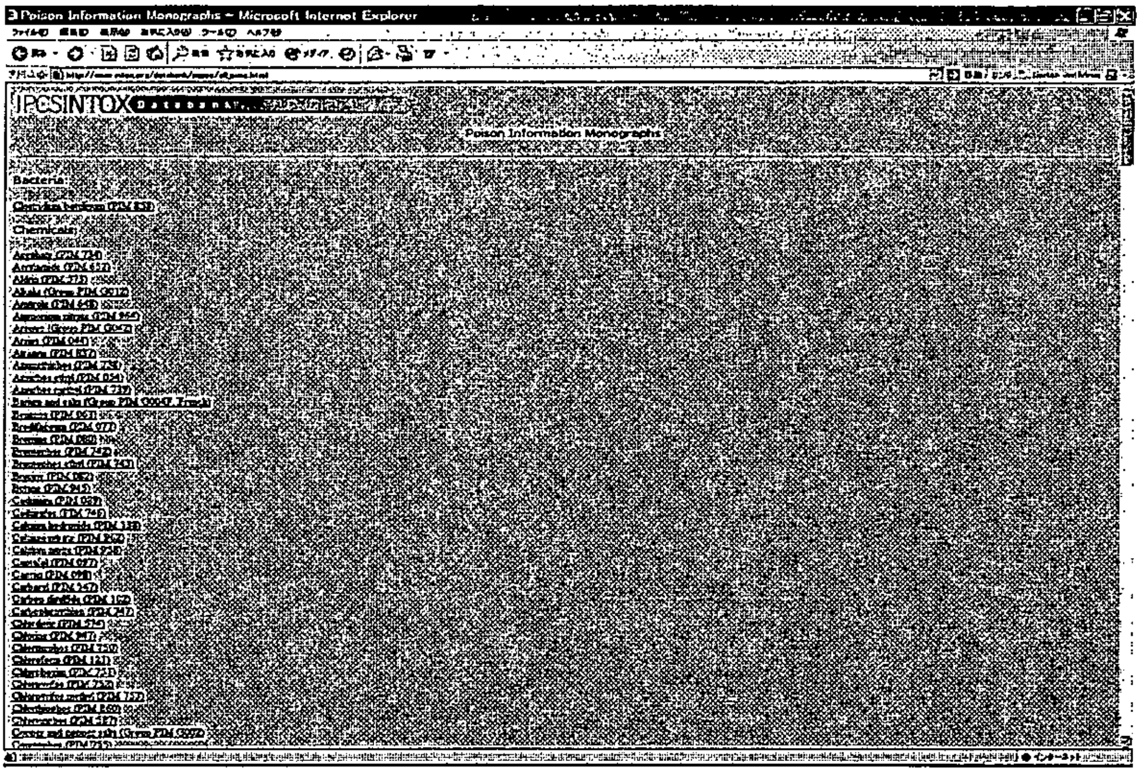
INTOX データベース



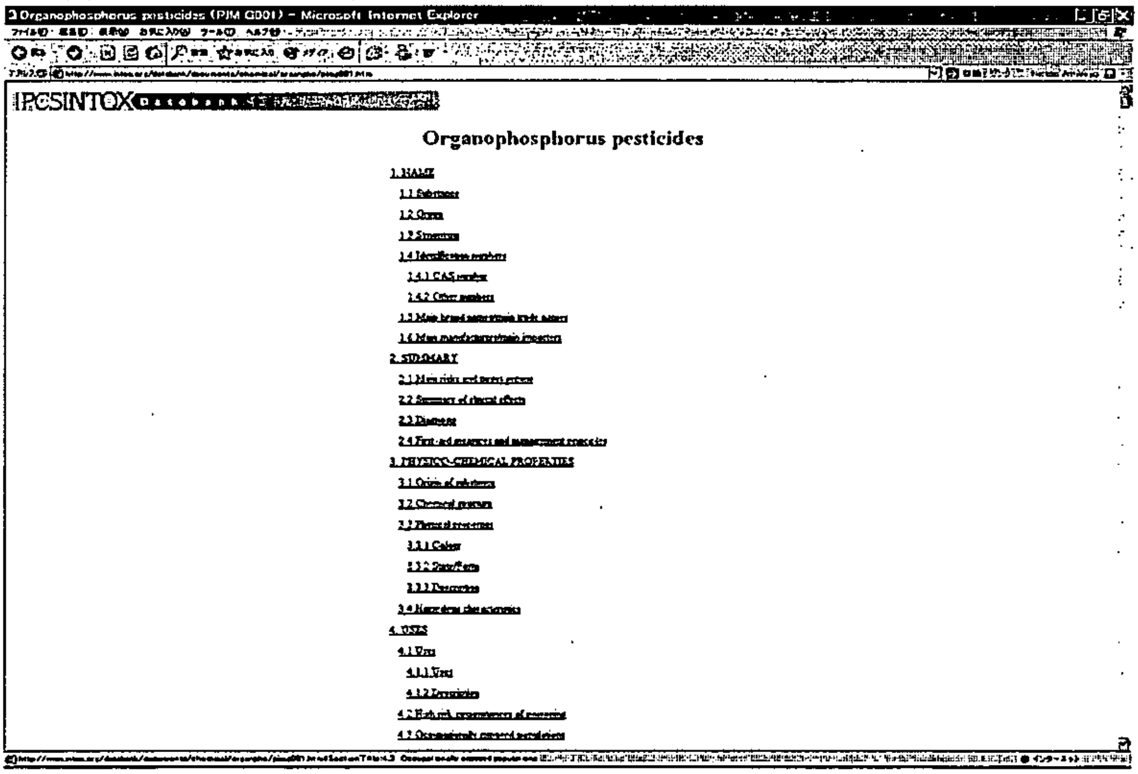
例：化学物質



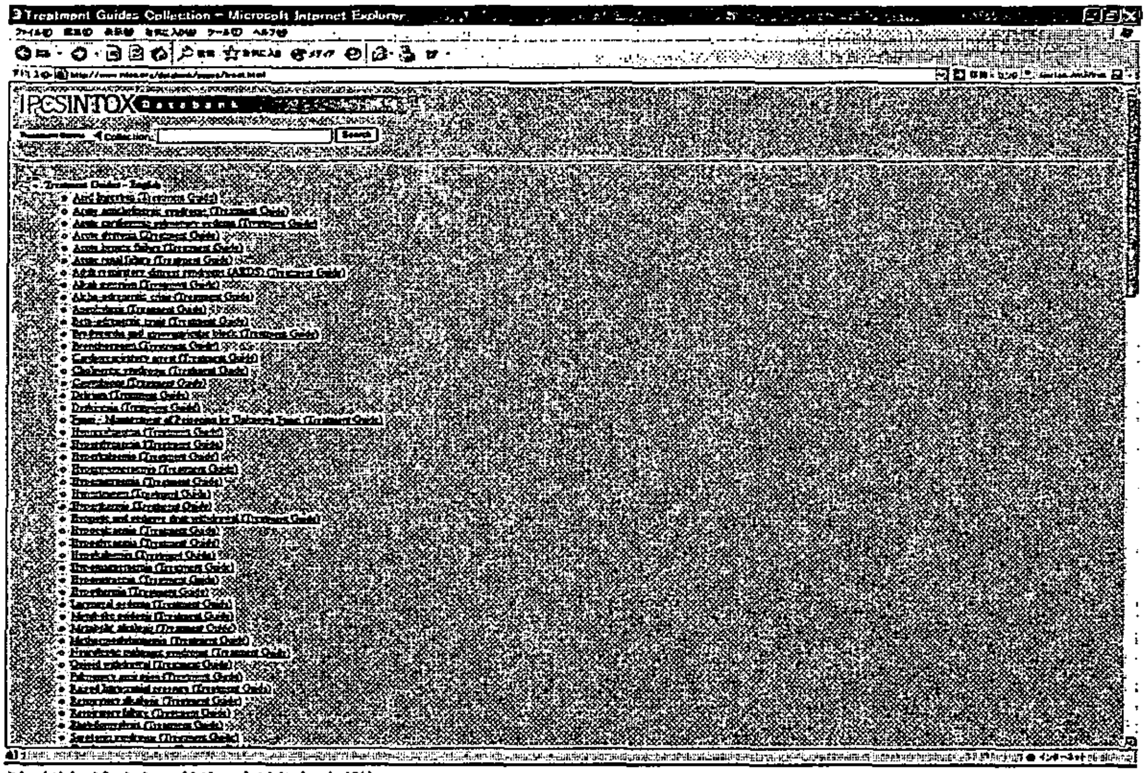
中毒情報モノグラフ



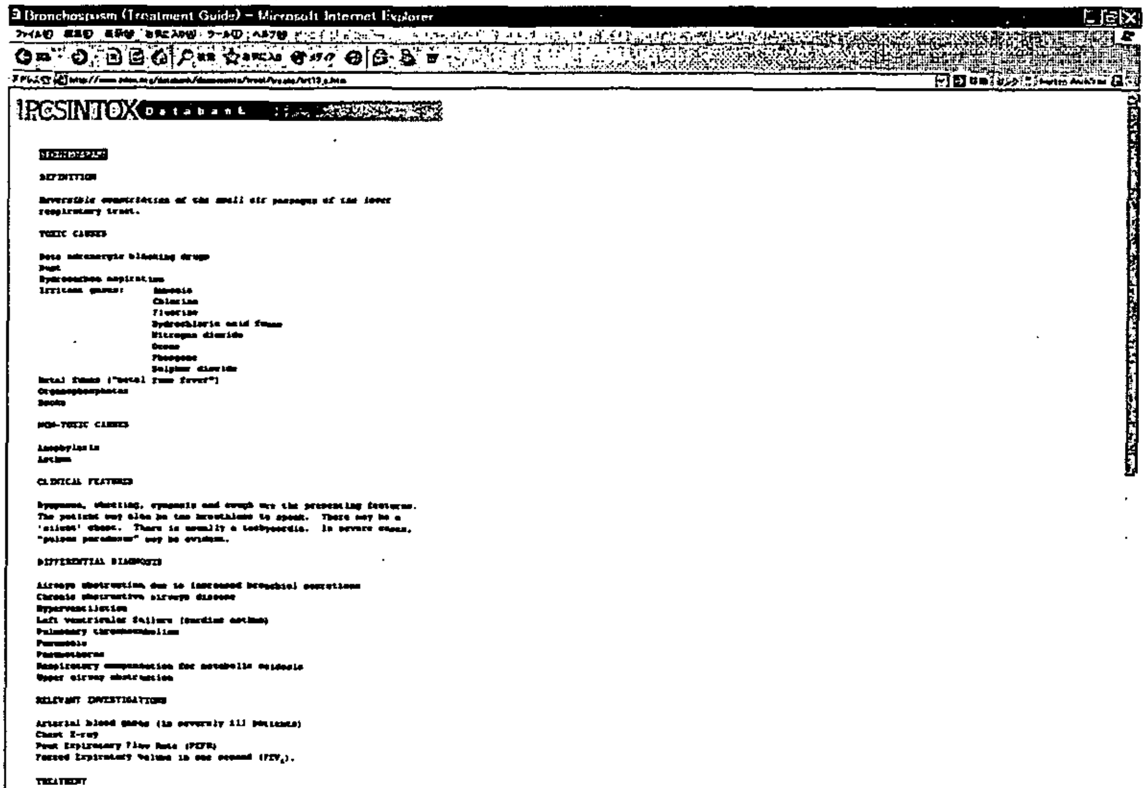
中毒情報モノグラフ（例：有機リン）



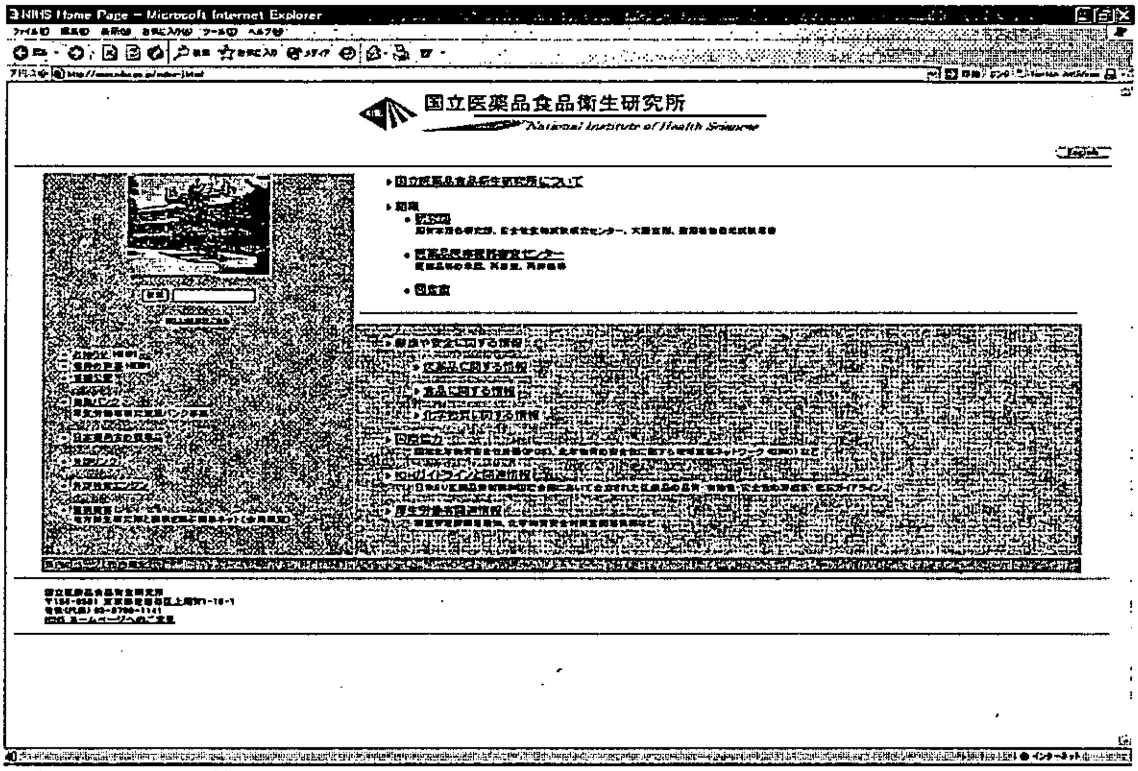
治療法ガイド



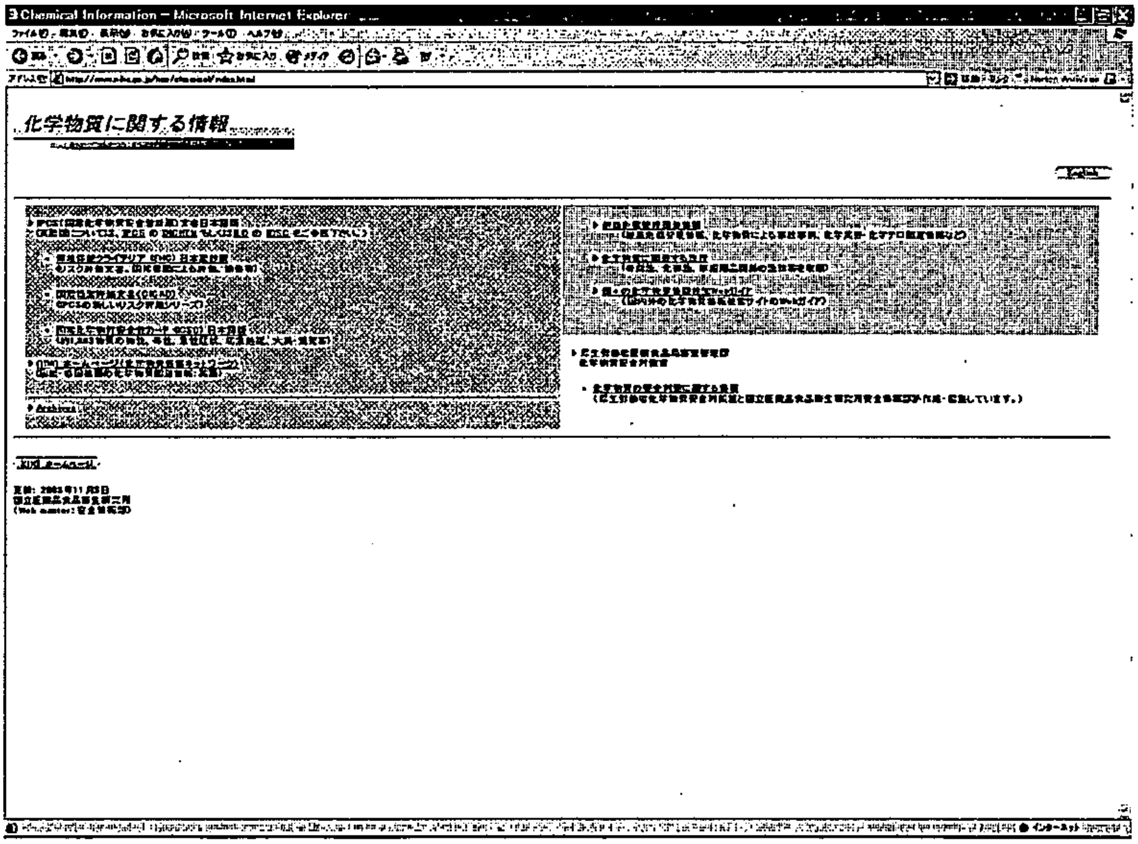
治療法ガイド（例：気管支痙攣）



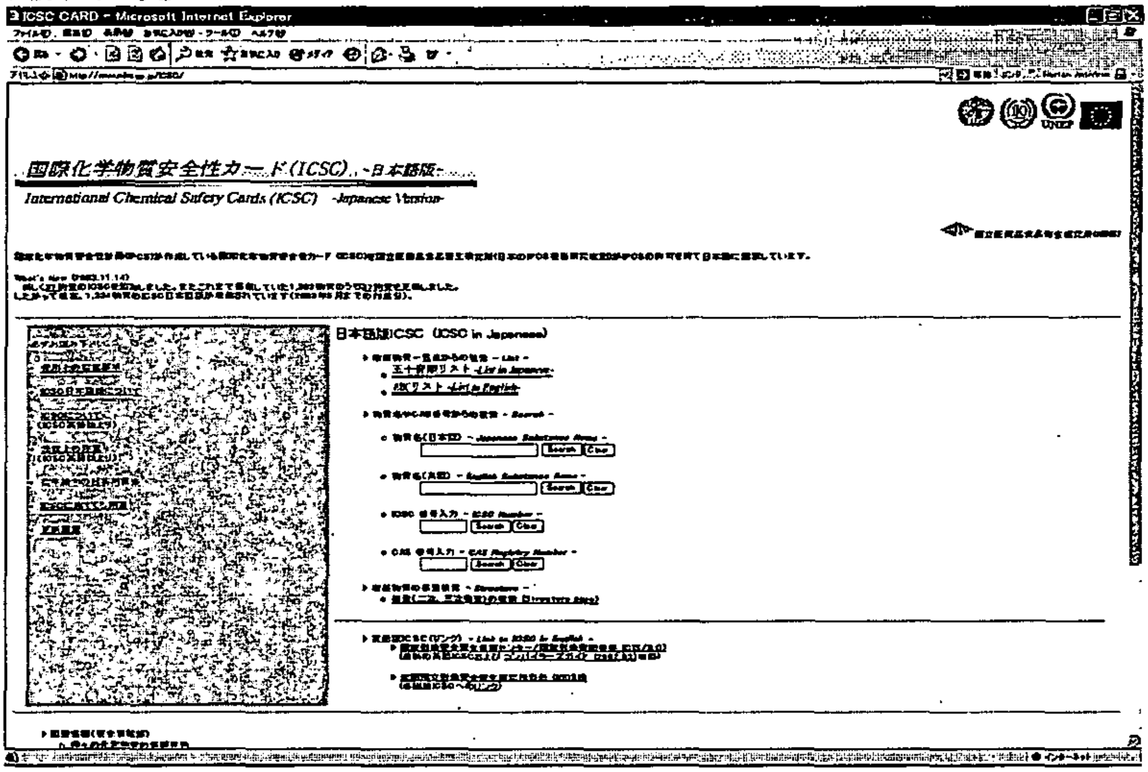
国立医薬品食品衛生研究所



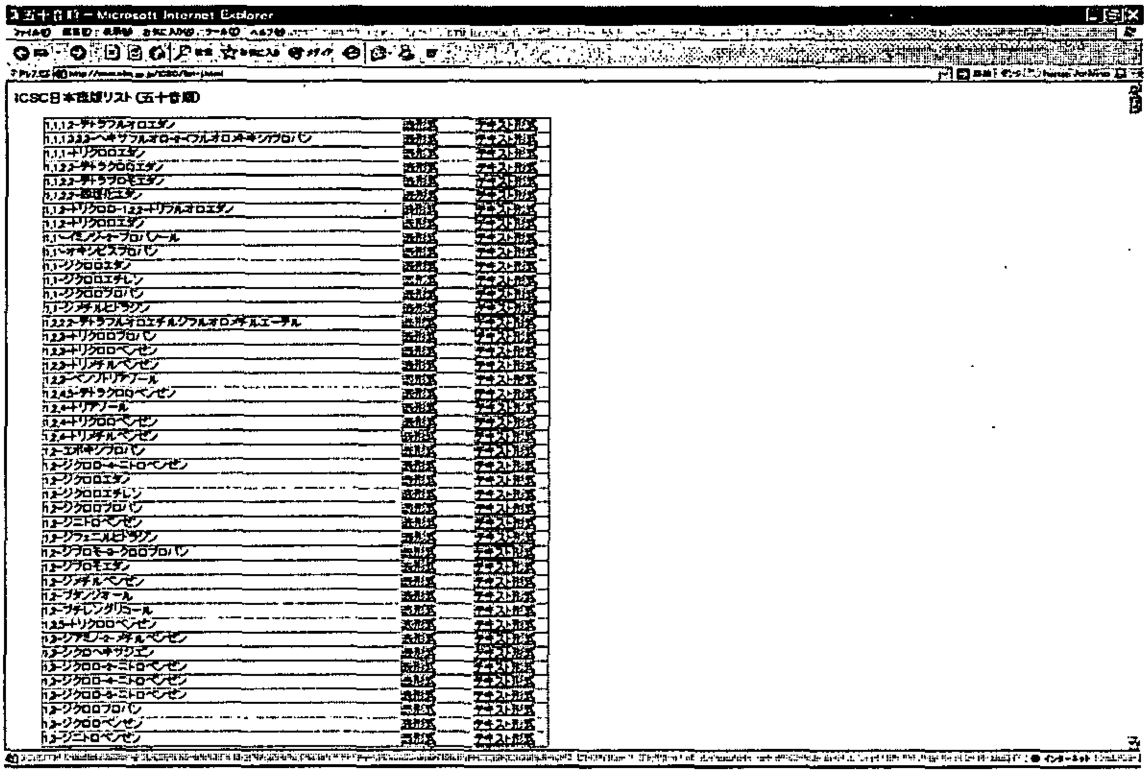
化学物質に関する情報



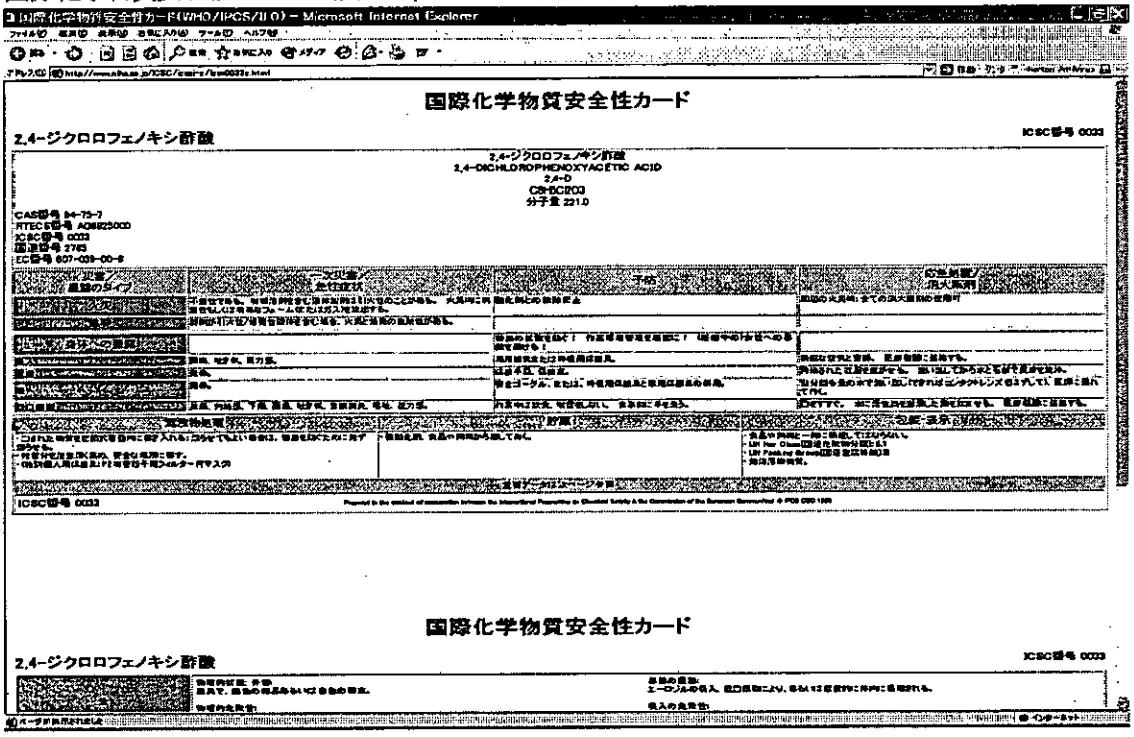
国際化学物質安全性カード



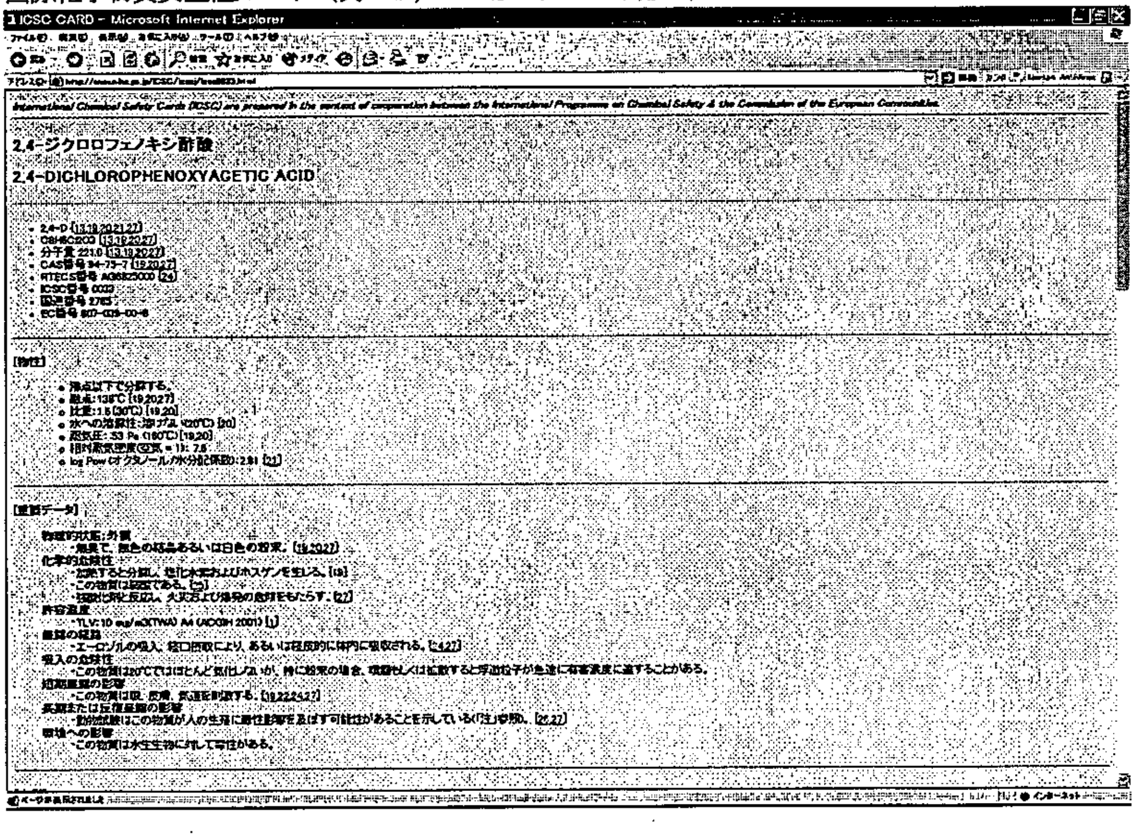
国際化学物質安全性カード　日本語版リスト（五十音順）



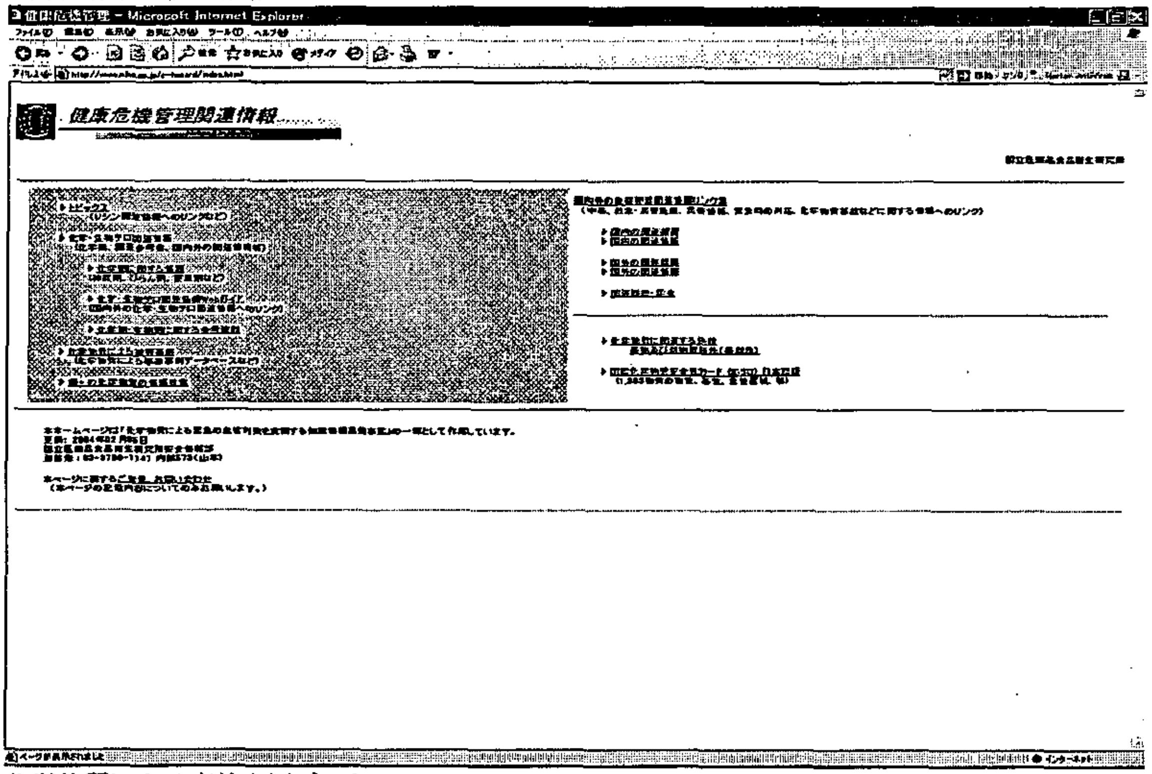
国際化学物質安全性カード（例：２，４－D　表形式）



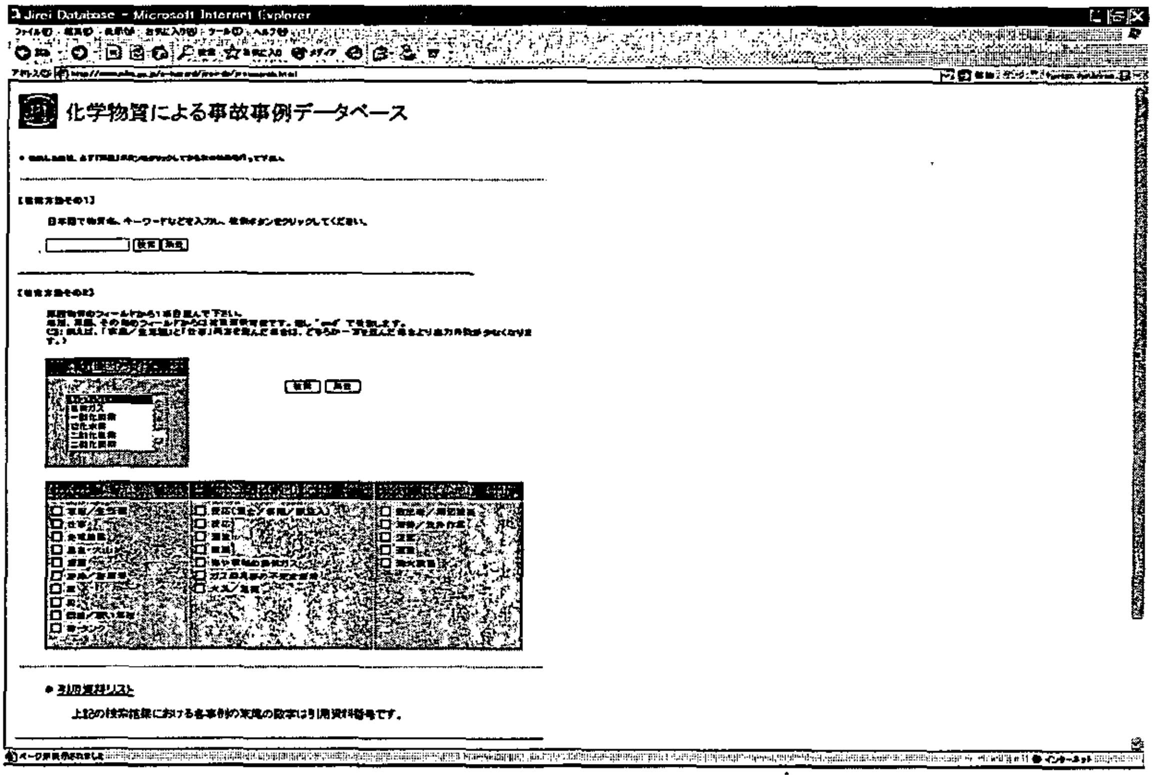
国際化学物質安全性カード（例：２，４－D　テキスト形式）



健康危機管理関連情報

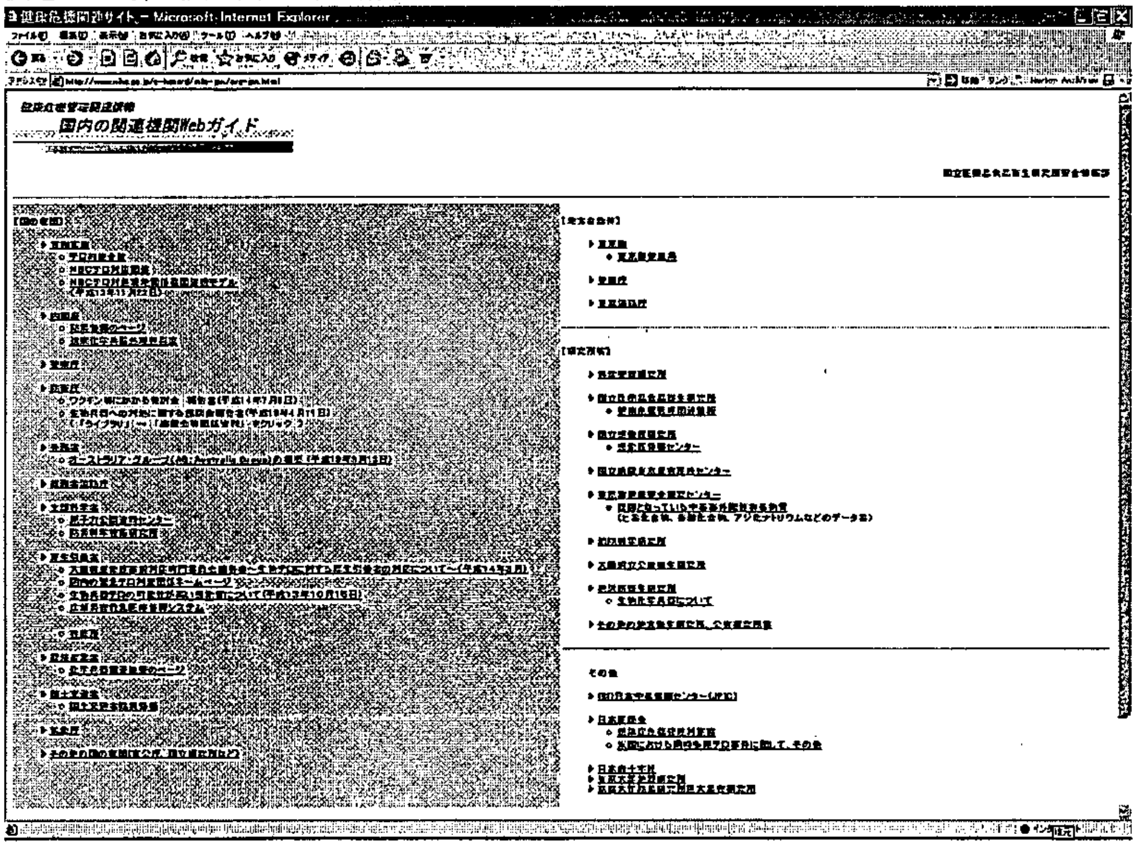


化学物質による事故事例データベース



化学物質による事故事例データベース（検索用語例：硫化水素、処理施設）

化学物質による健康被害事例検索結果（検索キー "硫化水素, 処理施設"）

原因物質	発生日時	発生場所	被害者数（死者を除く）	死者数	状況	引用文献
硫化水素	1985.08 —	北海道		2	薬品製造工場の汚水処理施設内の汚水貯槽を清掃中、槽内の底部の汚泥をかき集めていて被災。	141
硫化水素	1985.10 —	愛知県	1	1	ビル地下の汚物槽の内部で、注水により壁面清掃中被災。救出者も被災。	141
硫化水素	1985.10 —	青森県	2		魚の処理の際に出る廃水処理施設の曝気槽の上部で手すり等の清掃作業中被災。	141
硫化水素	1985.10 —	大阪府	1	1	清掃のため硫化ソーダタンク内スラッジをドラム缶へ汲み出す作業中、ドラム缶にかぶせたふたをあけた際、スラッジから発生した硫化水素で被災。	141
硫化水素	1985.10 —	東京都	1		し尿貯留槽の上に設置してある便所で用便後、槽と連結している便所の落口から流出した硫化水素で被災。貯留槽の排気ファンが破損していた。	141
硫化水素	1986.01 —	兵庫県	2		産業廃棄物処理を受託されたアルカリ廃液を中和しようとして硫酸を入れたところ、硫化水素が発生。	140
硫化水素	1986.04 —	福岡県	1		し尿貯留槽の残さをかき出すため、作業員が槽内に降り被災。	140
硫化水素	1986.04 —	福島県	2		五硫化リンの製造工程で発生する残渣物の投棄埋設作業中、加水分解・中和処理を行っていない残渣物が含まれていたため五硫化リンと雨水が反応し、硫化水素が発生。	140
硫化水素	1986.06 —	長崎県		2	魚粉飼料製造工程の水抜きバルブ操作のため作業員2名が相次ぎ槽内に入り被災。	140
硫化水素	1986.07 —	埼玉県		2	産業廃棄物処理場の汚水排水施設で配管修理のため集水ピットに入り被災。救出者2名が被災。	140
硫化水素	1986.07 —	神奈川県	1		廃液処理反応の終点を確認するためにサンプリングを行おうとしたが、異臭を感じ退避する途中意識を失い転落。	140
硫化水素	1986.07 —	石川県		1	ごみ処理場の汚泥貯留槽の内部に入り、清掃作業中に被災。	140
硫化水素	1986.08 —	山梨県	1		し尿槽の汲み取り作業中、し尿をかき寄せるため作業員1名が槽内に入り、作業中に被災。	140
硫化水素	1986.08 —	静岡県	1	1	魚油、魚粉製造工程の汚水、魚の生肉のカス等を集めておく血水ピット掃除のため、ピット内に入り被災。救出者も被災。	140
硫化水素	1986.08 —	栃木県	4		し尿貯留槽の清掃作業中、作業員1名が中に入り被災。救出者3名も被災。	140

関連リンク集（例：国内の関連機関 Web ガイド）